

国際交流基金の主な活用事例

※昭和63年4月1日 四日市市国際交流基金条例 施行



四日市市国際交流基金は、本市の国際性を高揚するとともに、市民の国際感覚の醸成に資することを目的として昭和63年3月31日に設置されました。

これまでの寄附金額は、法人から60,488,317円、個人から2,210,000円に達します。

以下は、国際交流基金の主な活用事例です（※令和8年3月1日現在）。

01 次世代環境人材育成事業（充当額：15,346,481円【H23～R6】）

高校生地球環境塾

四日市市の姉妹都市であるロングビーチ市、友好都市である天津市の高校生が本市の高校生とともに研修及び意見交換を行い、相互理解を深めることにより、次世代を担う青少年が、国際的な視野から環境について考え、各々の市において、環境保全活動の活性化につなげることを目的としています。



02 姉妹友好都市交流事業（充当額：7,270,125円【H25,27】）

姉妹友好都市提携周年事業

ロングビーチ市との姉妹都市提携50周年記念事業の一環として、記念誌の作成を行いました。また、天津市との友好都市提携35周年記念事業の一環として、青少年スポーツ交流や、市内の小中学校を訪問し、中国の伝統楽器演奏会を行いました。



《50周年記念誌》



《伝統楽器演奏会》

03 その他

市内企業グローバル人材育成支援事業 （充当額：2,636,820円【H27,28】）

市内に事業所を有する企業の海外への事業展開の促進に寄与するため、海外赴任者等が現地で円滑に職務を遂行するために最も必要とされる実践的な英語教育を実施しました。

観光対策推進事業 （充当額：1,830,600円【H29】）

オーストラリア記念館を取り壊した後、当記念館の説明や移設経緯のほか、四日市港とシドニー港との姉妹都港提携について記載されたモニュメントを四日市テニスセンター前に設置しました。